

# 今後の学校についてのアンケート調査

## 1 調査目的

児童生徒数の減少及び教育環境等の変化をふまえ、今後の学校のあり方について検討していく基礎資料とするため

## 2 調査対象

洲本市立小・中学校教職員

## 3 調査期間

令和5年12月19日（火） ～ 令和6年1月19日（金）

## 4 調査回答数

202件

## A 回答される皆様について

Q1. お勤めの学校（複数ある場合は主なもの）を選択してください。

選択肢	件数	割合
小学校（洲本地域 8校）	90	45%
小学校（五色地域 5校）	57	28%
中学校（5校）	50	25%
⑱答えたくない	4	2%
⑳その他	1	0%
	202	100%

Q2. 年代を選択してください。

選択肢	件数	割合	選択肢	件数	割合
①30歳未満	30	15%	④50代	56	28%
②30代	51	25%	⑤60歳以上	12	6%
③40代	34	17%	⑥答えたくない	19	9%
				202	100%

## B 学校の規模について

Q3. ひとつの小学校として望ましい児童数について選択してください。

選択肢	件数	割合
①できるだけ少ない方がよい	54	27%
②クラス替えできる程度は必要	112	55%
③できるだけ多い方がよい	3	1%
④その他	33	16%
	202	100%

Q4. ひとつの中学校として望ましい生徒数について選択してください。

選択肢	件数	割合
①できるだけ少ない方がよい	24	12%
②クラス替えできる程度は必要	152	75%
③できるだけ多い方がよい	5	2%
④その他	21	10%
	202	100%

Q5. ひとつの学校として望ましい学級数（クラス数）について選択してください。

選択肢	件数	割合
① 1 学年当たり 1 学級以下 (小学校 6 学級以下、中学校 3 学級以下)	39	19%
② 1 学年当たり 2 学級程度 (小学校 12 学級程度、中学校 6 学級程度)	118	58%
③ 1 学年当たり 3 学級以上 (小学校 18 学級以上、中学校 9 学級以上)	17	8%
④その他	28	14%
	202	100%

Q6. 複式学級（2 学年以上が 1 学級となり、ひとりの先生によりひとつの教室で学習すること）についてのお考えを選択してください。

選択肢	件数	割合
①できるだけ避けるべき	127	63%
②やむを得ない	53	26%
③特に支障はない	9	4%
④その他	13	6%
	202	100%

Q7. 望ましい学校規模を考えていくに当たって、重視されるものを**3つ以内**で選択してください。

選択肢	件数	割合
①子ども同士の間関係が深まりやすく、教職員とも親しみやすい	87	15%
②多くの子どもや教職員とともに学ぶことで、多様な考え方に触れることができる	74	13%
③縦割り活動など学年を超えた経験が得られやすい	53	9%
④クラス替えにより人間関係が広がりやすい	61	10%
⑤子ども一人ひとりに活躍の場が多い	70	12%
⑥子ども一人ひとりに対してきめ細かな対応ができる	119	20%
⑦体育や音楽など集団的な学習や行事を行いやすい	23	4%
⑧専門性の高い教科学習を行いやすい	8	1%
⑨保護者や地域住民との距離が近く、学校関連行事に参加しやすい	37	6%
⑩関係する保護者や地域住民が多く、学校関連行事で担う負担が小さい	14	2%
⑪子どもひとり当たりの教室や運動場の面積に余裕がある	34	6%
⑫その他	4	1%
	584	100%

### C 学校の配置について

Q8. 学校の配置（位置）について、望ましいものを**3つ以内**で選択してください。

選択肢	件数	割合
①なるべく校区（通学範囲）の中心にあってほしい	175	37%
②なるべく災害の影響を受けにくいところにあってほしい	139	30%
③なるべく人口が多いところにあってほしい	15	3%
④なるべく人口が少ないところにあってほしい	5	1%
⑤なるべく商業施設の近くにあってほしい	7	1%
⑥なるべく商業施設が少ないところにあってほしい	14	3%
⑦なるべく便利な道路の近くにあってほしい	49	10%
⑧なるべく交通量の少ない道路の近くにあってほしい	54	11%
⑨その他	13	3%
	471	100%

#### D 今後の学校について

Q9. 児童生徒数の減少に対し、必要又は有効とみられる取り組みを3つ以内で選択してください。

選択肢	件数	割合
①若年層や子育て世帯を対象とする移住者支援の充実	138	34%
②コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の導入を通じた地域住民等との目標や将来ビジョンの共有	98	24%
③小中一貫校の導入	54	13%
④小規模特認校の導入	62	15%
⑤学校の再編（統廃合）	36	9%
⑥その他	14	3%
	402	100%

Q10. スクールバスを導入する場合、利用者（児童生徒）が許容できるとみられる最長の通学時間（片道）を選択してください。

選択肢	件数	割合
①おおむね30分以内	170	84%
②おおむね1時間以内	21	10%
③おおむね1時間30分以内	0	0%
④その他	11	5%
	202	100%

# 今後の学校についてのアンケート調査

## 各問「その他」選択の回答内容

### A 回答される皆様について

Q1. お勤めの学校（複数ある場合は主なもの）を選択してください。

⑩その他

1	教育公務員なので、現在の勤務校は関係ないかと思えます。
---	-----------------------------

### B 学校の規模について

Q3. ひとつの小学校として望ましい児童数について選択してください。

④その他

1	小学校学童期において多い人数は望ましくない。個に応じた対応ができなくなるため。また、必ずしもクラス替えが必要なわけではない。小さな集団にきめ細かな対応で子どもを育成することで、人間形成の基本がはぐくまれる。
2	1クラス20人程度
3	単学級でも 20人前後
4	できるだけ、歩いて通える距離で通学できる範囲の中に学校があるといいと思う。複式学級にならない人数がいれば良いと思う。
5	小学校の場合、現状の担任一人体制のままであれば、複数であろうが単学級であろうが、20～25人ほどのクラスが適当。この範囲に当てはまらない場合は多いよりは少ない方がよい。
6	望ましい児童数というものではなく、児童数に合わせた（生かした）学習形態を考えていくことが大切だと考えます。
7	教員の立場としては、ひとつの小学校として、というのではなく、「1クラス」30人以下が望ましい。
8	支援の要する児童も多いため、きめ細やかな指導ができる人数、もしくは教員の人員配置が望ましい。
9	1クラス20人程度が良い。
10	クラス替えができる程度の人数がいることは良いとは思いますが、クラス替えのない規模の学校が合っている生徒や地域もあると思うので、望ましいかどうかは一概に人数で測れるものではないと思います。
11	正直、どれとも言えない。単学級の良さもあるし、複数学級の良さもあります。
12	単学級で30人程度が理想
13	学校全体の児童数というより、学級の児童数が30人以下になる方が望ましいです。
14	少なければ少人数指導の良さがあり、多ければいろんな人と関わり、多様なふれあいごできる。好ましい人数と言われても難しい。
15	学校の規模は、児童数が多い少ないの課題ではないと思います。
16	最低10人、30人までがよい
17	単学級でもよいが、複式学級ではないほうがよい
18	低学年は1クラス15人程度、高学年は1クラス20人程度。
19	クラスとして最低10人程度はいた方がいい。

20	少なすぎるのも不安だし、多すぎるのも課題はある。これという選択肢がなかった。
21	少数の良さ、人数が多い良さ、それぞれあるためどちらが良いとは言いきれません。ただ、子どもの人数が多い少ない関係なく、地域に根ざした教育ができるのが小学校の良さであり、児童にはその教育が必要だと考えます。学校規模だけを統廃合の指標とするのではなく、洲本市の児童にとって最善の学校編成をお願いします。
22	20～30名程度が理想。その規模のクラスが1クラスでも2クラスでもいいと思う。
23	児童数だけで一概に判断はできない
24	望ましい児童数とは、学校規模や地域によってにも違うし、この選択肢では解答しづらい。
25	多くても少なくてもいい
26	地域性によるものなので、一概に望ましい数という考えはいかなものか
27	一学級15人～25人ぐらいが望ましい。単学級には単学級の良さがある。
28	クラス替えできる程度の人数がいいが、クラス定員の上限を30人以下にするなど、きめ細やかな教育ができるように対策をして欲しい。
29	多過ぎず少な過ぎずがよい。クラス替えは長短ある。
30	少ない方がよい、多い方がよいというのではなく、一クラスあたりの人数が20人程度が望ましい。
31	学校・地域の実態に応じた児童数
32	クラス替えできてもできなくても、1クラス25程度。
33	どちらにもメリットデメリットがあり、答えにくい

Q4. ひとつの中学校として望ましい生徒数について選択してください。

④その他

1	地域で生徒指導面を見守る必要があるため、現在の地域を崩してまで生徒数で校区を区切ることは望ましくない。
2	1クラス25人程度
3	同じ地域に生まれた同級生とのかかわりは一生の宝だと思う。地域差があって良いと思うので、望ましい数が何人なのかは難しい。
4	望ましい児童数というのではなく、児童数に合わせた（生かした）学習形態を考えていくことが大切だと考えます。
5	教員の立場としては、「1クラス」30人以下が望ましい。
6	支援の要する生徒や多いため、きめ細やかな指導ができる人数、もしくは教員の人員配置が望ましい。
7	クラス替えができる程度の人数がいることは良いとは思いますが、クラス替えのない規模の学校が合っている生徒や地域もあると思うので、望ましいかどうかは一概に人数で測れるものではないと思います。
8	学校全体の児童数というより、学級の生徒数が30人以下になる方が望ましいです。
9	小学校で書いた理由と同じく、少なければ少人数指導の良さがあり、多ければいろんな人と関わり、多様なふれあいができる。好ましい人数と言われても難しい。
10	単学級でもよいが、複式学級ではないほうがよい
11	1クラス25～30人程度。
12	地域によって一概には言えない
13	20～30名程度が理想。その規模のクラスが1クラスでも2クラスでもいいと思う。
14	望ましい児童数とは、学校規模や地域によってにも違うし、この選択肢では解答しづらい。
15	多くても少なくてもいい
16	地域性によるものなので、一概に望ましい数という考えはいかなものか

17	一学級15人～25人ぐらいが望ましい。単学級には単学級の良さがある。
18	クラス替えできる程度的人数がいいが、クラス定員の上限を30人以下にするなど、きめ細やかな教育ができるように対策をして欲しい。
19	多過ぎず少な過ぎずがよい。クラス替えは長短ある。
20	少ない方がよい、多い方がよいというのではなく、一クラスあたりの人数が20人程度が望ましい。
21	学校・地域の実態に応じた生徒数

Q5. ひとつの学校として望ましい学級数（クラス数）について選択してください。

④その他

1	地域で生徒指導面を見守る必要があるため、現在の地域を崩してまで生徒数で校区を区切ることは望ましくない。
2	1学年1学級あることが望ましい
3	小学校は6学級程度い、中学校は6学級程度
4	校舎に合った、無理のないクラス数であれば良いと思う。
5	小学校は単学級、中学校は複数学級
6	小学校はクラス数ではなく、1学級的人数を20～25人になれば、単学級でも複数学級でもよい。中学校は複数学級が望ましいが、1学級的人数はできる限り少ない方がよい。
7	望ましい学級数というものではなく、学級数に合わせた（生かした）学習形態を考えていくことが大切だと考えます。
8	クラス数より、1クラスあたりの生徒数と、生徒1人あたりにつける教員数の確保が大事。
9	小学校は1クラス、中学校は2クラス。1クラス20人程度が良い。
10	生徒や地域によって実情が異なるため、望ましいかどうかは一概に人数で測れるものではないと思います。
11	単学級と複式学級、それぞれの良さがあるので。
12	小学校は単学級、中学校は1学年あたり3学級程度が良い
13	1学年当たり1～2学級が妥当かと考える。ただ子ども的人数で学級を分けるのも大切であるが、淡路島、この洲本市においてはそうではない部分も大きいと考える。
14	地域の状況に合った学級数
15	1学年当たり1学級以上
16	小学校は学年1学級でよい。中学校は2クラスか3クラスあればよい。
17	それぞれに良さがあると思う。
18	学級数だけで一概に判断はできない
19	「望ましい」についてどうお考えの質問なのか。学校教育は規模のせいで、優劣が生じるものではない。
20	どれでもいい
21	地域や学校の特徴により事情が異なるのでこれが適正というのではない。
22	地域性によるものなので、一概に望ましい数という考えはいかなものか
23	少ない所も多い所もそれぞれに良さがあるので、どちらかでないといけないとは思わない。どちらも過ぎるのは良くないと思う。
24	学校・地域の実態に応じた学級数
25	1学年当たり1学級でも2学級でも、1学級あたり的人数が重要だと考えます。
26	1学年あたり1～2学級程度
27	中学校と小学校では適正規模が違うので一概に言えない
28	小学校は少なく、中学校は多い学級で過ごすことが望ましいと考えます。

Q6. 複式学級（2学年以上が1学級となり、ひとりの先生によりひとつの教室で学習すること）についてのお考えを選択してください。

④その他

1	複式を解消する方法が現時点で有る。だから、何年かに一度かやむを得ず生じる少人数の学年にあわせて学校数や教員数を減じるのは、子どもに対する教育の質の面から良くないと考える。
2	できるだけ避けるべきだがどうしてもなら複式学級は仕方ない。ただし、SA、SSSなどの支援が必要 ※「SA」スクールアシスタント 「SSS」スクールサポートスタッフ
3	複式学級が云々ではなく、生徒1人あたりに対する教員数が問題である。
4	複式となった場合も加配などで複数で指導できる体制が作ることができるならば、複式でも支障はないと感じる。
5	生徒や地域、学校の状況によって異なる実情があるため、是非は一概に測れるものではないと思います。
6	今まで複式学級をもったことがないのでわかりませんが、異学年が同じ教室で学習することに違和感があります。
7	いい面もあると思う
8	生徒数で複式になるのは致し方ないが、指導教諭は複数つけるべきである。
9	一人の教師ではなく、複数の教師の配置を望みます。
10	そもそも、人数が少なくなったら複式にするという制度に疑問を感じる。少なくとも一学級あっていいと思う。
11	教科書上、同時に指導ができない教科は避ける方が良い。体育や図工など2年間で行うような学習については複式で授業を実施することも検討してはどうか。
12	避けるべき
13	質問の意図が不明 現状ならやむなし。解消を望むなら児童数を増やすしかないが、何に対しての考えを求めているのか。

Q7. 望ましい学校規模を考えていくに当たって、重視されるものを**3つ以内**で選択してください。

⑫その他

1	上記のものはどれも大切です。規模に合わせて、環境に合わせて生活の仕方や学習の仕方で重視するもの、育むものを考えればよいと思います。
2	質問の3つ以内、というのも疑問である。どれも重視されるものであり、学校規模によって「できないもの」と決めつけるのはいかがなものか。
3	①学校数を減少させることにより、経費が充実した学校環境等への投資に充てられること。スクールバス運用の経費も非常に大きいはずである。それらの兼ね合いを考慮し、統廃合したことで、人数的に切磋琢磨できる環境ができただけでとどまらず、教育環境を充実させることができたといえるように考えていただきたい。②適切なスクールバスの運用がなされること。（便数、バス停までの距離、乗車時間など）子どもたちが、家庭環境や、学校までの距離など差がある中、通学に困難が生じることの無いように考えていただきたい。
4	人数だけにこだわらず、地域性やその学校の歴史にも着目する方がいい。

C 学校の配置について

Q8. 学校の配置（位置）について、望ましいものを**3つ以内**で選択してください。

⑨その他

1	人口や校区内の位置には関係なく、一つの地域に1校ある。
2	安全に通学できるよう交通整備されているところ
3	通学時に安全で、家から子どもたちが通いやすい場所
4	学校は地域コミュニティの核であるから、現在の配置が望ましい。

5	人数の少ない校区の生徒が不利益を被らない配置であってほしいと思います。
6	①広い学校用地の確保ができる地域を考えていただきたい。校区が大きくなると、学校行事を行うにしてもほとんどの方は自家用車での来校となる。駐車場の確保に頭を悩ませることになる。②複数の道路から、学校に出入りできる環境を整えていただきたい。スクールバスの出入りはもちろん、自家用車で送迎される保護者も多くなる。かつ、学校行事や引渡しなど、一斉に多くの自家用車が来校する際、その出入りに関して一般道路に迷惑をかけないような学校設置を考えていただきたい。
7	徒歩通学の時間がかからず、車での送迎や参集が便利なところにしてほしい。
8	公共の施設や社会見学等がしやすいところ
9	現状でよい
10	利便性のみが大事だとは思わない。そこにあった学校がなくなるということへの影響は大きいだろうし、学校や教育に求められているものは、「やはり当たり前」にそこにある」という感心感ではないか。
11	地域と学校が共に活性化していけるようなところ
12	地域コミュニティの中心地域
13	学校が置かれる地域の特性や現状によってどれが望ましいかは違ってくる。一概には言えない。

#### D 今後の学校について

Q9. 児童生徒数の減少に対し、必要又は有効とみられる取り組みを3つ以内で選択してください。

##### ⑥その他

1	市が、教育・子どもに予算を投じてほしい。
2	移住者に限らず、子育て世代への支援の充実と、多様な働く場所などの充実
3	移住者だけでなく、今洲本市に住んでいる若年層や子育て世帯に向けての支援の充実。
4	移住者もさることながら、今洲本市に住んでいる人たちが将来も住みたいと思える町づくりをしていく必要があると思います。魅力のある町であれば児童生徒数は自ずと増加すると思います。
5	市の方策として、子育てしやすい支援・制度の拡充（例：医療費助成制度の所得制限見直し、保育所定員の増員、保護者がリフレッシュできる体制）により、子育てしやすい町づくり
6	共働き世代にとって、魅力的な施策が必要。①高速バスの定期券が、別会社でも利用できる。便数を増やすことと同様の効果が期待できる。②高速バス駐車場周辺の宅地化。③夜遅くまで預かってくれる施設や病気の子どもを預かってくれる施設の充実。都市部から離れた、不便な地域でも自然豊かな環境というだけでなく、安心かつ便利な生活を送ることができる具体的な支援が必要。
7	他校との交流授業。オンライン、対面を問わず。少人数校でも大集団を作ったり、より大きな発表の場がもてるようにする。
8	淡路島の子供が増えるようなPR活動
9	現状を維持すべきである。統廃合などを行うと、地域とのつながりや生徒の地元愛が薄れてしまい、地域に活気がなくなる。子供たちが成長し、将来地元で暮らしてほしいと望むなら、現状を維持をすべきである。そのために、市はもっと地域で子どもを育てるための教育費にお金をかけなければいけないと思う。
10	移住者のみを支援するのではなく、市民の支援を拡充し、より多くの子どもを産みたいと思えるようにしてほしい。

11	児童、生徒数が減少してもその地域に根ざした教育をベースに続けていく方がよいと考える。
12	企業誘致や雇用の創出など若い世代の働く場の充実
13	学校規模に左右されないオンライン授業・交流等による取組推進
14	限定的ではなく、子育て世帯全体への確実な支援

Q10. スクールバスを導入する場合、利用者（児童生徒）が許容できるとみられる最長の通学時間（片道）を選択してください。

④その他

1	15分以内
2	通学距離が長くなった場合は、スクールバスを出すのは当然であるが、いずれにせよ、子どもたちに負担を強いるということ。
3	通学時間の長さよりも地域の生徒や保護者に対しての親身な姿勢と手厚い支援が必要だと思います。
4	最後の児童がバスに乗って15分まで。それ以上は児童は疲れてしまう。
5	10分
6	自宅からバス停までの徒歩を含めたおおむね1時間以内。午前中、給食無しで下校した場合、これでも昼食時間はずいぶん遅くなる。
7	おおむね15分以内
8	20分以内
9	統廃合には反対なので答えない。
10	スクールバスは時間の制限を受ける事が多いので反対である。
11	乗る時間が少なくても、生活が大きく変化するので短ければ許容できるとはいえない。

## E 今後の学校のあり方について（自由意見）

Q11. その他ご意見・ご感想等についてご入力ください。

※ホームページ等で公表する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

1	地元の地域で見守られ、地域で様々な体験をし、その地の良さを感じながら育った子どもが、将来地域を大切に思うのだと思います。コミュニティの拠りどころとして地域の小学校の存在は意義があり、消滅しないように守り続けてほしいです。
2	学校、地域がお互いに子どもの成長を見守れる学校づくりと、保護者や、地域の協力や地域人材の発掘、獲得が必要。
3	児童・生徒数の減少だけで統廃合を計画するのは反対である。大人数に対応が難しく、小規模校で助かっている児童・生徒も多数いる。現状の計画では、弱者を排除すると思われる仕方のない計画だと思う。学校現場のことをどれだけ理解して、統廃合計画をしているのか疑問である。
4	進めるにしても単純に統廃合だけするのではなく、一学級の基準人数など、根本の部分から見直しが必要と思われる部分についても変えていかないと意味がないと思います。

5	<p>広報ちらし案の中に出っていますが、学校再編（統廃合）の例はあまりにも学校数が減少になっており、これから小・中学校に入学する子どもがいる家庭や洲本市に住もうと考えられている人が、洲本市から離れてしまい、洲本市の人口減少に繋がると思います。同一学年に複数学級の編成が難しいことも分かりますが、現状でも単学級で編成し、学年だけでなく多学年との交流を通じた交流の時間を確保することも多く、縦割り班活動にて高学年は低学年の見本になろうと一所懸命に考え、教えたり、低学年は高学年からいろいろなことを学び、自分たちも大きくなったらあんなことやこんなことがしたい。など、子どもながらに考えています。また、他の学校の同学年と交流をしている学年もあり、単学級でもいろいろな子どもと関わられるよう取り組んでいます。そしてなによりも、地域から学校がなくなってしまうと、若い人や世帯が離れどんどん高齢化が進むことが明らかです。その為に、学校再編を進めるのであれば、学校再編と共に、その地域のニーズや地理的条件を考慮した形の福祉・医療、交通サービスの確保を検討してほしいです。</p> <p>また、学校の再編を考えるにあたり、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時に保護者の送迎と被った際、近隣の住宅、その道路を通勤等で利用されている方々に迷惑がかからないような対策の整備。</li> <li>・自転車通学をする児童生徒のため、安全に登下校できるよう自転車道路の整備。</li> <li>・スクールバスを導入する際は、土・日の部活動指導がある場合のバスの運行。</li> <li>・中学校で35人学級が進んだ場合、少人数授業を行う際の教室の確保。</li> <li>・部活動指導における、練習場所の確保。（青雲中学校では、陸上部やバスケットボール・バレーボール部は市民交流センターを利用しています。市民交流センターの使用ができなくなった場合、どこで練習をするのでしょうか。）</li> </ul> <p>また、災害時の避難所を担っている学校が多い中、案のように学校数を減らした場合、その地域の災害対策や避難所運営等、行政や地域の方々だけで進めていくことができるのでしょうか。行政の方がすぐに駆け付けることができる地域において、マンパワーが必要な時に動くことができる人をどのように確保するのか、地域防災についても考えておく必要があると思います。地域にとっても、子ども・高齢者の方は宝だと考えています。これまでの洲本市、そのご家庭や地域で生活し、支えてくださっている高齢者から子どもたちは学びを得ることがたくさんあります。その子どもたちが、成長し、洲本に戻ってきたいと思えるよう、そして、その次の子どもたちが安心して登校し、学習する環境を守るためにも、学校再編はもう少し弾力的な考え方をしてほしいです。学校の教職員も行政の方々同様、洲本市を大切に考え、子どもたちの学びを第一に、よりよい洲本市となるよう日々取り組んでいます。他府県・他市町ではいろいろな取り組みもされています。そのような取り組み例も保護者や地域に発信し、検討していただけるよう、行政主導であっても、保護者や地域、学校の教職員の意見を吸い上げ、学校現場との話し合いを大切にしながら、検討が進められるようお願いいたします。</p>
6	<p>学校再編する場合、その後の地域の活性化支援を行う必要がある。</p>
7	<p>洲本市において夫婦で教員をしている場合、中学校が1つとなれば同じ学校で勤務する形をとれるのか</p> <p>また、教員の子どもが、勤務している学校に通わざるを得ない場合が考えられるが、その点はどうするのか</p> <p>学校に通うこどもについて考えることはとても大事だと思うが、それと同時に、その学校で働く教員や事務員について、働き方や人員の配置についてどのように考えているのかも知りたいです。</p>

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の統廃合により、職員数の人員削減ではなく、複数担任制や専門教員として配置するなど人員確保をしてほしい。</li> <li>・スクールバスを導入する時は、スクールバス担当の職員を配置し、学校職員の負担を減らしてほしい。</li> <li>・学級の児童数については、クラス替えはある方がよい。1学級の定員を1～6年生まですべて30人以下学級が理想である。</li> <li>・統廃合を進めるにあたっては、学校教職員の意見（アンケート結果）や地域住民の意見を尊重した政策を行ってほしい。</li> </ul>
9	<p>学校が減ることによって単に教職員数を減らすといったことはせず、教職員の意見を尊重した人事を行い、身分保障はしっかりとしてほしい。</p> <p>また、クラス替えができる程度の人数の児童生徒数が望ましいとは思いますが、きめ細かな指導をするためには1クラスの定数を30人以下にしてほしい。</p>
10	<p>再編を考えるにあたっては、児童生徒数が減少傾向によるやむを得ない対策という視点だけではなく、人口減少に歯止めをかけ、さらには人口が増加していくような魅力ある「洲本市」を目指すという視点を重要視していただきたい。若年層や子育て世代が他市から移り住んででも住みたいと選んでもらえるように、現在住んでいる人がずっと住み続けていたいと思うように、市が主導となり福祉を始めとした「魅力ある洲本市」となるような積極的な対策を望みます。</p>
11	<p>1学級の児童数は、少なすぎると児童同士の関係が固定化してしまうが、多すぎるときめ細やかな個別指導が難しくなります。教職員の負担としては、1学級の人数が増えるほど負担も大きくなるように感じますが、学校の統廃合によって教職員数に余裕が出た分を加配としていただけると、業務内容を分担することもでき、負担もあまり増えずに済むように感じます。人口減少によって、統廃合を進めざるを得ない部分はあるかと思いますが、校区が広くなることで地域との繋がりが希薄になってしまうことは懸念点であると思います。</p>
12	<p>地域から学校がなくなるということは、その地域の衰退を加速させます。学校の統廃合を論じる前に、地域と学校の交流を増やして、地域で統廃合を検討すべきだと思います。</p>
13	<p>参加させてくれてありがとうございます。</p>
14	<p>複式学級を阻止の上での統廃合は仕方ないと思うが、地域の中で子どもを育てていく事が大切だと思うので、保護者や地域の声を最優先に、統廃合ありきではなく慎重に議論する必要があると思う。</p> <p>市として統廃合をしなくてもすむような人口を増やす施策を考える必要があると思う。</p>
15	<p>小学校は、地域に根差すべきだと考える。地域の大切な文化を継承していくためにも、学校の統廃合については慎重になるべきだと思う。</p>
16	<p>児童数が少なくなってきたので、学校の再編はやはり必要になってくると思うが、人数合わせだけするのではなく、伝統や地域行事等のふるさと学習も取り入れ特色ある学校にしてほしいと思う。</p>
17	<p>チラシの4番「学校統廃合の例」は載せるべきではないと思います。これを載せたチラシを全市民に配布するとします。見ると大きな衝撃を受ける方もおられるでしょう。よく読まず、そこだけを見てチラシ通りに統廃合が行われるものだと思う家庭もあるかもしれません。すると、「学校が遠くなるなら引っ越そうか」となり、市外へ転出する家庭が出てくることも考えられます。全国的な人口減はある程度仕方ありません。ただ、更に市の人口減を加速させるかもしれないチラシを見て、ここで書かせていただきました。ご再考いただきたいです。</p>
18	<p>学校の統廃合を進めると、特色あるふるさと文化や郷土愛を育てる機会が少なくなるように思う。</p>
19	<p>普段から地域と学校が互いに協力しあい、地域やその地域に住む人を大切にできるような関係を築いていくことが大切だと考えます。</p>

20	統廃合は避けられない部分はあると思うが、小規模校には小規模校の良さがあり慎重に考える必要があると思う。子どもたちのことを第一に考えて検討してほしい。
21	<p>不登校児童数の増加と小規模化の関連性があまり理解できません。教職員の疲労と現在の洲本市の学校の規模や配置との関係性がそこまで感じられません。</p> <p>統廃合することによって、むしろ業務、勤務時間が激化する不安の方が大きいです。</p> <p>児童数減少→学校の統廃合となる流れは分かりますが、これまで小規模を生かして取り組んできた学びや地域との関わりは一朝一夕で得られるものではなく。何より大切にしないといけないものであると考えます。子供たちにとって母校はふるさとです。子供たちのことを第一に考えて検討していただきたいと思います。</p>
	<p>「洲本市公立学校における適正規模・適正配置について【概略版】」において小・中学校の課題として以下の7点を挙げ、学校再編を考えていく、ということであるが、「課題」とされる点が偏ったものであることが議論以前の問題である。</p> <p>&gt; 1 集団のなかで、多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会が少ない。 少ないからこそ、生徒1人ひとりの活躍の場が多く、また、縦割りやオンライン等の学習も可能で、多様な考え方に触れ、学びの多様性が広がっている。小規模だからこそ、できる学びの成果は大きい。</p> <p>&gt; 2 体育・音楽などの集団学習や集団行事を適切に行えない。 体育会や音楽会は、全校生で取り組んだり、地域と連携して行ったりして小規模でしかできない集団学習を行っており、成果も上げている。普段の授業でも、適切に行えている。</p> <p>&gt; 3 児童生徒数・職員数が少ないため多様な学習形態をとりにくい。 少人数だからこそできる学習と1人ひとりに向かった学習指導を行えている。少人数であることの方が多様な学習形態をとることができる。</p> <p>&gt; 4 クラス替えができないことから、人間関係や相互の評価が固定化しやすい。 洲本市でも不登校生の増加が課題であるので、地元で小さい頃から知り合った人間関係で、地域に見守られながら育つことが大事であるように思う。地元から切り離し、あらゆる地域から集まってくる大集団の中になじめない子が不登校になってしまう。</p>

22	<p>&gt; 5 学校行事や児童会活動などにおける役割、位置づけが固定化されやすい。      少人数では、1人ひとりの活躍の場が与えられ、むしろ成長の場が多い。役割の固定化はむしろ逆で、全員がさまざまな役割を持ち、どんどん可能性を広げている。</p> <p>&gt; 6 部活動の設置が限定され、選択の幅が狭い。      部活動は地域移行となるので、課題にあたらぬ。</p> <p>&gt; 7 P T A活動等における保護者一人あたりの負担が大きい。等      P T Aは任意団体であるとして、市内でも保護者の加入の有無を問う学校も出てきている。ゆえに、課題にあたらぬ。</p> <p>今後、話し合いが始まるということであるが、地元住民にも、偏った視点での「課題」を論点にあげ、一方的に統合の方向にもっていくことはないようにしてほしい。R2年度から審議会が行われていたようであるが、小規模校の課題（本来課題でもないのだが）にしか焦点をあてるのではなく、公正・公平な説明をして、丁寧に進めていってほしい。小規模校や少人数を否定するものではないということも、反映してほしい。</p> <p>今回の教職員向けアンケートの扱いに関しても、数字（％）だけあげて、「教員の意見」として都合のいいように使われないか不安である。この内容がおもてに出るようなことがあっては一大事である。赴任先の学校で、その学校のために尽くすのが教員の役割であるから、その学校を否定するような意見を出すのは本来おかしい。全体の奉仕者、としての立場である。</p> <p>兵庫県が掲げる、「地域とともにある学校」で、「ふるさとを愛する」心の育成は、将来の洲本市を支える人材の育成につながる。学校は、「適正規模」といった人数だけの問題ではなく、子どもの心を育むことが一番の使命であるから、地域とともにある学校をなくすことは、失うものが大きすぎる。</p>
23	<p>洲浜中学生で中川原地区の生徒はスクールバスによる不利益を被っている。部活動や、生徒会活動などで何をしても制限があるのが現状。特に、土曜日や長期休業時においてもバスが出ていないので、家庭に送迎の負担をかけている。夏には全国的に熱中症で登下校中に亡くなる生徒がおり、自転車で長距離を登下校する生徒は心配だった。統廃合をしたとしても不利益を被る家庭が増えると思われる。</p>
24	<p>小中学校は、地域で学び地域で育つことが大切な要因の一つだと感じている。地域から離れることで地域の活力も衰弱していくように感じる。また、統廃合によって通学距離が遠くなり、学校開始時間が遅くなったり、下校時間が早まる可能性があるのではないかと考える。子供たちの自由な時間や部活動の活動時間等にさらに制限がかかってこないか心配である。授業以外のこういった時間は、生徒同士や教師生徒間での関わりをつくる重要な時間だと考えているため、心配である。</p>
25	<p>学校の数、児童数も大切だと思うが、これからの社会に対応できる、個別最適な学習を受けられる環境づくりが必要である。児童数が理想的であっても、そこに地域性に縛られる大人や、狭い視野でしか子どもの未来を見れない大人が囲めば、広い世界に羽ばたく子どもを育てることはできない。考えるのは、子どもにとっての最善であり、そこには大人のアップデートが必要である。より良い地域の残し方を考えつつ、子どもへ必要以上の影響を与えない方法を考えなければならないと考えます。</p>

26	地域から学校がなくなることにより、その地域がさらに衰退していくと考える。どのようにすれば少子化に歯止めをかけ、豊かな洲本市にしていけるのかを考え、それをPRすることで若年層の流出を防ぎ、移住者を増やす取り組みを実行していくことがまず必要であると感ずる。他市にはないもっと魅力的な街づくりや取り組みなどを行ってほしい。
27	児童・生徒数は減少しているものの、支援を要する児童・生徒は増えている。個別最適な指導や支援を行うためにも児童・生徒数が増えすぎない方がよいと思う。（それを望む児童・生徒・保護者もいるはず。）学校の適正規模を国の基準に合わせるのではなく、淡路・洲本に合った規模での教育が行われるべきではないか。淡路・洲本の良さを最大限に生かされるような教育が行われるべきだと思う。
28	子どもの数が減ってきているのは事実で、統廃合を考えざるを得ない状況に差し迫ってきているのはよく理解しています。しかし、これまで学校が地域や保護者と共に築き上げてきた数々の特色ある行事がなくなっていくのはすごく残念です。小規模校では、横のつながりはもちろん縦のつながりもでき、異学年で交流を楽しんだり、高め合ったりできます。子どもたちが笑顔で安心して通える洲本市の学校であってほしいです。
29	<p>現在洲浜中学校では中川原地区の生徒はスクールバスによる不利益を被っています。部活動、生徒会活動など何をするにしてもスクールバスの時間に合わせて活動を切り上げる必要があり、他地区の生徒に比べると圧倒的に制限があるのが現状です。土曜日や長期休業時においてもスクールバスが出ていないことによって中川原地区のご家庭には送迎等で多大なご負担をおかけしています。特に今年度の夏は登下校時に熱中症で亡くなる生徒が全国的に増加しており、自転車で長距離を登下校する中川原生徒のことを心配している教職員も多く、今後もこのような状況が続くことは大変不安です。スクールバスの増便や代替のタクシーを出すなどといった手立てを中川原地区の生徒に対して現在洲本市がきめ細やかに対応してくれているのであれば、統廃合をしたとしても同様に手厚くしてくれることを期待できますがそうではありません。このまま統廃合を進めれば小さな学校の地域がさらなる不利益を被ることが想像できます。</p> <p>中川原中学校の閉校後、洲本市はこのような中川原地区の現状に関してきちんと聞き取りを行い把握をしているのでしょうか。また、学校を新設するような資金は洲本市にあるのでしょうか。</p> <p>地元から学校がなくなるということは地域の人たちにとって大変寂しく抵抗があることです。現状でも校区を越えて学校を選び通っている生徒もいます。小さな学校も残しつつ、もっと自由に学校を選べるようにしてはどうかと思えます。また、統廃合の規模基準は昭和33年に示されたものです。それは現代の地域事情に合っているのでしょうか。単純に統廃合をするだけであればますます洲本市は廃れてしまいます。</p> <p>大きな学校で大人数の中で刺激を受ける教育環境も良いですが、小さな規模の学校だからこそこできる教育があり、それを必要としている生徒もいます。実際に教職員としても青雲中学校での勤務より洲浜中学校での勤務の方が生徒一人ひとりにきちんと向き合いきめ細やかに仕事をする事ができています。人を育てる教育において、児童生徒一人ひとりに心を寄せて手厚く対応できることは大切なことだと思います。人を大切にしない町に未来はないと思います。洲本市に生まれ育った現在の人たち、未来の子どもたちがこれからも住み続けたいと思える洲本市であってほしいと願ってやみません。</p>
30	地域の声をしっかりと聞いて、どの地域も不利にならないように、話し合いを進めて欲しいです。

31	<p>学級の数が増えて子ども同士の関わり方が多様になるのは良いと思う(学習面においても)。</p> <p>通学時間が長いのは、子どもの負担になる。バス停から歩く場合もあるので、時間がかかりすぎるのはよくない。</p> <p>統廃合が進みすぎると、子どもが住んでいる地域とのつながりがうすれてしまう。</p>
32	<p>一つの学級に児童・生徒数が30人以下となるほうが、子どもたちにとっても学習しやすく、指導が行き届きやすい環境になると思います。</p>
33	<p>学校の統廃合の問題は洲本市において避けては通らない課題であると考えます。ただ、洲本市の現状から小学校は地域のコミュニティの中心の一つの機関として機能している。人数が少なくなったからと言って統廃合をしてしまうと、洲本市自体の過疎化、弱体化につながる可能性も高いと考える。魅力ある地域や伝統に密着した学習をできる環境が子どもたちにとって郷土愛につながる。人数だけでなく、地域と密着した今の学校数を残しつつ、政策や地域の魅力ある学習を通すことで、洲本の良さを未来につなげる策の一つだと考える。</p>
34	<p>子どもたちにとって生徒数減少や予算、立地の影響が出ないようにするのが一番必要かと思われる。</p>
35	<p>少子化により統廃合が行われることは仕方のないことであると思います。しかし、校区が広過ぎたり1学級の人数が多過ぎたりといったことがないようにしてほしいと思います。学校へ通う子どもたちのことを一番に考えてもらいたいです。</p>
36	<p>時代の流れとともに統廃合は仕方のないこともありますが、出来るだけ地域の特色を残して行ってほしい。また、あらゆる面で専門的な教師も是非お願いしたい。</p>
37	<p>通常学級で支援を要する児童が増加している。30人以下学級で、担任とSAなど複数体制で子どもの学習指導や生活支援、また、保護者対応ができるようにする必要があります。</p> <p>※「SA」スクールアシスタント</p>
38	<p>学校や地域の意見をしっかり聞いていただけますようお願いいたします。</p>

39	<p>①現状の案の中に、学校を保護者が選択できる案がある。スクールバスの配車を考えると、経費が膨らみ現実的でないと思われる。また、段階的に統廃合をするならば、スクールバスの路線についてもその都度考えた方がいいのではないか。重複経路が出てくることによる無駄な経費と通学時間の短縮を考えることができる。</p> <p>②段階的に統廃合を進めるとなると、そのたびに校舎改築、移転費用、校名変更に係る諸費用…など、多くの時間と経費が掛かる。また、統廃合を進めようとするたびに反対意見が出てくる。今後数十年は活用できる環境整備と切り切った統廃合が必要と思われる。</p> <p>③将来的に、中学校1校となる可能性が示唆されている。生徒数減少により、必要なことかもしれないが、中学校職員の人事異動はどうなるのか。職員の入れ替わりにより、職場が活性化されることもある。</p> <p>④③を考えると、五色地域は、五色中学校の広い用地をうまく活用して、小中一貫校を設立したらどうか。クラス替えのある学校規模としたとき、難しいのかもしれないが、特色ある学校運営を行えるともいえる。</p> <p>⑤③を考えると、中学校1校にするのならば、淡路島管内での人事異動を積極的に考えていく必要が出てくるのではないかな？</p> <p>このような意見集約の機会をいただいたことはありがたい。しかしながら、どんな改革にも反対意見は必ずある。すべての合意を得ることは不可能である。意見に耳を傾けたうえで、子どもたち（人数的な環境だけでなく、経費をかけた教育環境の充実）を最優先に、市として固い決意で取り組んでいただきたい。用地確保や教員の採用など、計画的に実施していかなければいけないことが、本当にたくさんあると思われる。前回、このような意見集約をただけで、その後、何も進まなかった。今回は、そのようなことがないようにしていただきたい。子どもたちの教育を考える上でも、洲本市の未来を考える上でも、すでに遅いと思われる。</p>
40	<p>人口減少により、子供の数が減ることは残念に思うが、学校を再編して1つの学校にするのは、違うと感じる。スクールバスに乗って登校する時間は長く、生徒の負担にもなる。従来どおりの各学年あたり、1クラスのほうが充実した濃い授業が展開できると感じる。</p>
41	<p>通学時間が増えると時間的制約が生じ、生徒の負担につながるのではないかな。 小規模、少人数の良さも考えてほしい。</p>
42	<p>今後、洲本市も統廃合を進めていくべきである。子ども達が学びやすい環境を整えてあげたい。小規模校は、その良さもあるが、多様な考えや学びの機会が少ないので、規模を考えて再編してほしい。</p>
43	<p>再編成をするにあたっては、児童や家庭、職員に負担がないように、内容を十分吟味しながら計画を進めてほしい。</p>
44	<p>小規模校でも、大規模校でも、メリットデメリットはあります。一概にどちらのほうが良いとは言えないと思います。 ただ、あまりにも児童数、生徒数が減りすぎてしまうと、デメリットが目立つようになると思います。 合併するであろう時期に、実際に児童生徒を学校に通わせることになる家庭、親、子どもたちの考えを優先すべきだと思います。</p>
45	<p>学校を適正規模にすることは大事かもしれませんが、児童生徒への影響や地域との関係、学校の歴史、地域住民の思い等もあるので、慎重に進めていく必要があると思います。</p>
46	<p>通学時間が増えることにより、時間的制約が生じ、生徒の負担につながるのではないかな。 また、再編に伴う教職員の再配置はどのようにしていくのかを考える必要があると感じた。</p>

47	<p>少子化に伴って学校の統廃合が行われることは仕方ないと思うが、一番大切なことは子どもにとって何が大切かということだと思う。子どもにとっての利益を一番に考えてほしい。また、統廃合によって生じる業務(スクールバス乗車児童の確認など)を教員が負担するのではなく、そのための人員も確保してほしい。今の教育現場の過剰な業務の軽減と子どもたちのニーズに合った指導を実現するためには定数改善(35人以下学級もしくは30人以下学級)が必須であると思う。</p>
48	<p>何はともあれ、人口増加や子育て世代の増加、もしくは、少子高齢化や人口増加の減少に歯止めをかける市の施策がまずは望まれる。そうした地域活性化にあたり、地域のコミュニティーである学校の存在は何より必要なものであると考える。小規模校ならではの異学年等、子どもたち同士のつながり、個々を大切にしていける教育活動の推進、地域との連携、ICTを活用した他校とのつながり、交流等現状を存続していく価値や手段は多く存在する。これからの未来を担う子どもたちが地域の中で生まれ、地域を愛し、大人になって地域に貢献していける土壌を守り続けることが私たち大人の使命だと考える。学校の再編成については、そうしたことを踏まえ、十分検討いただきたいと心から願っている。</p>
49	<p>地域性を考えると、統廃合しすぎるのもどうかと思う。地域に学校があることで、地域の活力になることが期待される。地域の良さを活かすためには、統廃合には慎重に考える必要があると思う。</p> <p>クラス替えできる人数の確保は、理想だが、必ずしもそうではないところがあると思う。小規模校ならではの良さや学習の効率を考えると、大規模校をむやみに作っていくよりも、小規模校の方が教育的には良いのではと思うところもある。</p>
50	<p>地域に学校があることは地域の活力になると考えます。複式学級阻止の上での統廃合は仕方ないと思いますが、統廃合する範囲は保護者や地域、その学校に勤務する教職員や通学する子どもの意見を聞き、慎重に議論する必要があると思います。また、子どもの人間関係の固定化を防ぐ上で、クラス替えができる人数を確保するのも理想的ですが、必ずしもそれがメリットとは言えないと思います。支援が必要な子どもも多い今、少人数だからこそできる教育もあります。規模が大きくなれば、色んな面で見過ごされてしまうことも多くなると思います。子どもにとってデメリットが多くなる統廃合は、避けるべきだと思います。</p>
51	<p>洲本市として、子育て支援を充実させるなど、若い世代が住みたいと思える街づくりをして、児童数の減少を食い止める策が一番大切である。空き家は多いが、新婚世帯が住める住宅等が少なく、他市へ流れて行っている。大規模な学校の合併が進むと、更に若者は定住せず、洲本市全体が廃れていくことになると思う。</p> <p>不登校や支援を要する児童も増えているので、きめ細かな教育が行える形での最小限の合併になるのが希望です。</p>
52	<p>洲本市でも人口減少に歯止めがかからない状態が続いている。</p> <p>統廃合については地域住民、保護者、児童生徒、各校関係者など多くの意見を丁寧に取り上げたうえで未来へのビジョンの明確に示していただきたい。</p>
53	<p>教育現場では、個別の支援が必要な児童が急増している。そのため、特別支援学級の児童も多くなり、定員いっぱいになっている。また、通常学級にも何人もつむぐファイルを持った児童が在籍している。この状況では、一人ひとりに対してきめ細やかな対応・指導をすることが難しい。子どもたちのためにも統廃合は望まない。</p>
54	<p>統廃合すると、それぞれの学校が現在行っている地域独特の取り組みが難しくなるのが残念に思う。</p>

55	学校は地域の宝です。小規模高だからこそできること、輝ける子たちがいると思います。地域のためにも、子どもたちのためにも、教職員のためにも学校再編はしなくていいです。災害があった時の避難場所などにも必要な場所だと思います。
56	統合するのであれば、学校設備や立地など保護者や児童生徒が魅力を感じる新しい施設が望ましい
57	金銭的な理由からの統廃合はできるだけ避けて欲しいと思います。児童生徒一人一人の安全と成長を一番に考え、洲本市全体でそれをサポートできるようお願いいたします。
58	小規模校になると、多様な考えに触れにくいというデメリットは、ICTによってカバーできる。 小学校が地域からなくなると、地域の文化がなくなるように感じる方がいる。 小規模校の方が、きめ細やかな境域ができ、学力保障がしやすいと考える。
59	小学校での再編や統廃合については、地域との連携・協働また地域の活力維持の観点からも慎重に考えていく必要があると考えています。
60	淡路島はそれぞれの地域に豊かな自然や文化があり、こどもを育てるには良い所だと思います。それぞれの地域には地域独特のつながりがあり、行事や活動のなかで子どもたちは見守られ育っていきます。児童生徒数は減少傾向にありますが、生徒数が少ないからといってデメリットがあるとは思いません。また、規模が大きいからといってメリットがあるわけではないのです。こどもの数が減ったからといって安易に統廃合を推進しないでいただきたい。
61	地域と密着した学校目指すことが大事です。また、子供も少なく目の届く教育が大事です。子供のニーズに応えることが求められます。
62	統廃合を行うことで地域との関係性も薄くなる。休日や放課後などの子どもたちの遊び場としての学校がなくなることは、子どもたちにとって大きな損失である。
63	小規模校で初めて勤務しましたが、人数が少ない分、一人一人に関われる時間やゆとりが多く取ることができました。また、地域との連携も強く、地域全体で学校を見守っている雰囲気や、地域学習が充実していると感じています。暖かい雰囲気の中、安心して学校に通えるのは、子どもたちにとって必要なことだと思っています。子どもたちも、自分の住んでいる町だからこそ学びや関わりがあり、住んでいる地域に誇りを持てるのだと思います。児童数が減ってきている現状も理解していますが、地域の関わり、教師と子どもたちの関わりを大切にしていきたいと思っています。
64	地域コミュニティに学校は欠かせないことを考えると、今ある学校は、存続していくべきだと思う。しかしながら、少子化の影響を考えるとそうも言われてられない。学校再編を進める場合は、再編時に、再編前の教員が勤務できるようにし、それぞれの児童にきめ細かい対応ができるようにあってほしい。
65	地域に学校があることが地域の活力になると思う。地域のよさを活かすことを一番に考えたい。
66	学校適正規模が、1学年につき2学級となっているが、小規模校ならではの長所もたくさんある。むしろ、義務教育の間は小規模で良いのでは。

67	<p>「中学校1校、小学校3校」という学校数について、統廃合への反発を見据えてギリギリの学校数が提示されたのか、具体性のある数なのか、気になりました。</p> <p>もし学校数が極端に少なくなるとなると、一人職の学校事務職員や養護教諭はどうなってしまうのでしょうか。</p> <p>他市の学校統廃合では、学校数減少に伴って、選ばれた職員が別の市へ追い出されたと聞きます。</p> <p>いずれ追い出されるのであれば、なるべく若いうちに、他市へ異動希望を出すことも検討します。</p> <p>統廃合で余った事務職員や養護教諭は、洲本市内の学校で勤務できるのか、教えていただきたいです。</p> <p>また、新しい学校の位置についても、どの程度具体的な案なのか、気になりました。</p> <p>洲本市のどこに家を建てるのか、あるいは、スクールバスや学校の運営方法等で不安を覚えて他市へ引っ越すのか。若者は学校の位置や環境を考慮し、今後の人生の方向性を決めると思います。</p> <p>学校数や学校の位置については、いつ頃決まってくるのでしょうか。</p> <p>いつの段階で何が決まる見通しなのか、教えていただきたいです。</p> <p>子供たちの様子は、少ない児童数のなかで出来上がった人間関係や親の力関係に縛られて、窮屈そうだと感じていました。</p> <p>子供のことを思うと、友人関係も部活動等の学校活動も、なるべく選択肢が多い環境が望ましいと思います。</p> <p>教職員として統廃合は困りますが、避けられないのではないのでしょうか。</p> <p>今回提案いただいた内容の具体性や、実現する時期については、洲本市の今後を決めることであると同時に、若年層の今後の人生設計にも関わってきます。</p> <p>進捗状況について情報が少ないと、将来に対して安心できず、仕事も住居も、より人口の多い島外へ移す前提で人生設計をすることにならざるを得ません。</p> <p>統廃合は避けられないとしても、若い世代としては、進捗状況を早い段階でなるべく細かく知らせていただくよう、お願い申し上げます。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

68	<p>学校のあり方についての件は今後の生徒数を見ていくといずれ考えなければいけないことなので事情はわかります。</p> <p>由良は1学年1学級なので、長ければ12年一緒にいる子もいるので、一つの学校にまとめるのであれば、関わりが増えたり、複数学級の楽しさや課題を知ったりという意味ではプラスにはなると考えます。</p> <p>しかし私が心配なのは、その学校の特性、その周りの地域の特性が失われていくのではないかとことです。洲本市のみならず、淡路島の学校は地域の人にとっても支えられています。それによって行える授業もあり、生徒もその授業を通して成長しています（由良であれば、おさかな教室、成ヶ島グリーン作戦など）。それを組んでいただけないのであれば、私は今の学校のあり方のままでいいのではと考えています。</p> <p>それ以外のことで考えるのであれば、もしそのようになったとしたらコミュニティスクール（ぴゅーぱるみたいなものではないか）として使う方がいいのではないかと思います。</p> <p>今はそれぞれ得意な専門分野を持っている子たちや一つのことに特化した子たちなども増えているので、その子たちの居場所や学べる場所にするのも一つと考えています。今は新しい教育の場や学校以外の教育の場も増えているので、どうか考えていただきたいと思います。</p> <p>予算のこともあるかと思いますが難しい問題かと思いますが、これを機に学校のあり方のみならず、広い範囲での教育の取り組みなども考えていただきたいと願っています。</p>
69	<p>学校の統廃合は地域の衰退につながる可能性があるので、慎重に協議してほしいと思います。</p>
70	<p>学校は地域との関わりが重要である。</p> <p>今後の洲本市を考えていく上で地域住民の考えを十分に聞いていただきたいと思います。</p> <p>またすべての教職員の待遇や生活を守っていただきたいと思います。</p>
71	<p>統廃合はやむを得ないかもしれないが、もっと先の未来を見据えて人口を増やす政策に着手するべきだと思います。難しいのは重々承知ですが市議会で抜本的な何かを唱える人はいないのか。</p>
72	<p>今、行われている教育をキープすることにこだわらなくてもよいが、少なくなったらくつつくければいいというのは、ちがうと思う。現場は、そんなに単純ではない。多い人数で学ぶ良さも少ない人数だからこそできることもある。それぞれに合った効果的な教育を現場の先生方は、これまでもこれからも子どもたちのために模索していく。少子化を合併のチャンスとするような進め方には反対する。</p> <p>複式になる条件や一学級の上限人数など、今の制度を抜本的に見直す時期がきていると思う。それは、これまでの日本の教育とだけ比べるのではなく、もっと視野を広げて、これからの教育のあり方を模索する必要があるだろう。</p> <p>何を言っても、全て「お金がないから」という結論で話が堂々巡りするようなことのないようにしなければ、これからの日本に明るい教育の未来はないと思う。</p>
73	<p>①統廃合が行われた際には、統廃合前に勤務していた教員を統廃合後の学校に配置してほしい。児童生徒の様子を知っている教員が多い方が新しい取り組みを行うときにも、円滑に行えると考えます。また、教員数も最初はできる限り減らさないように考慮してほしいです。</p> <p>②将来的には統廃合は逃れられない課題。可能な限り子どもたちにとって価値のある統廃合になるよう努力をしていただきたい。また、学校が地域からなくなった場合、地域行事が衰退していく可能性も考えられるので、統廃合に伴う各地域への影響も考慮しながら取り組みを進めていただきたい。</p>

74	各々の地域に学校があることが地域の活力になると思う。 子ども達、保護者、地域の声を最優先に、統廃合ありきではなく、慎重に議論をしてほしい。
75	学校を統合するかどうかについては、地域の良さを生かし、また子どもを地域で育てていくということからも、慎重に考える必要があると思います。また、統合のことも含めて、市の活性化について、もっと具体的かつ速やかな対応を考えていけるとよいと思います。人口減少だから仕方ないというのではなく、まずは市の活性化に力を注いでいただけることを強く願います。
76	地域に学校がなくなると、火が消えて状態になり、活気がなくなり、どんどん廃れていくばかりです。地域保全も含め、子どもたちが歩いて通える学校の維持が一番大切だと思います。
77	スクールバスを用いる場合、教員以外でバスの管理をする人員を確保してほしい。1学級30人以下学級を実現し、統廃合が行われたと時に、きめ細かい指導ができるよう教員の配置を考えてほしい。
78	不登校児童生徒の支援を充実させるべきだ。
79	第2期洲本市教育振興基本計画の施政方針「小規模（少人数）での良さを活かし…」の通り、各校で教育活動が推進してきました。R5.9.1に更新された教育事務に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果報告書において、小規模（少人数）に係る課題・改善策・学識経験者の意見の記載はなかったように思います。学校再編のアンケート以前に、小規模（少人数）での取組についての評価・検証を行う必要があると考えます。また、再編については児童生徒数の減少だけでなく、施設の老朽化、設備費・備品費の不足、人口減による地域コミュニティの人材減少や、税収減に伴う学校予算の減額等も踏まえて考える必要があると思います。児童生徒数減少の情報だけで、教職員や市民が総合的な判断による意見を発することができるのか疑問です。次期教育振興基本計画に、洲本市が目指す取組が明記され、学校再編を進めていただけることを期待します。
80	小中学校の再編（統廃合）については、地域住民への丁寧な説明と慎重な議論の上で進めて頂きたいと感じます。発展的な計画、予算編成の上、進めて頂きたいと感じています。
81	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスを導入する場合は、学校職員がバス担当と兼ねるのではなく、バス担当の人員を配置して欲しい。</li> <li>・統廃合を進める場合、教職員の負担が増えすぎないように、配慮していただきたい。</li> </ul>
82	<p>とにかく教育に関する予算を増やしてほしい。人員も足りない、施設も古くて直りもしない。教具も古いものばかり。それなのに現場の職員は最新のスキルや授業を求められる。多くの人が個人で道具を買ったりアプリをインストールしたり、負担しながら授業を行っている。それでうまく行ったら行政がうまくいってますアピール、うまくいかなかったら現場の実力不足。誰がやっても一定の効果は得られるだけの環境や道具を揃えてほしい。あと、行政はお金がなくてたとえば学校も統合するしか道がないのなら、アンケートをとって民意を伺っているフリはせず、話を進めていけばいい。時間の無駄である。</p> <p>とにかく現場の力頼みというか、個人の力に頼るところが多すぎる。教育にお金をかけない国や県や市は未来をあきらめているのと一緒にです。このままでは教師も生徒も地域もみんな共倒れです。</p>
83	大きな学校と小さな学校で、それぞれの良さがあると思いますが、クラスの児童の人数が多すぎると、子どもたちにとって穏やかに生活できないことも多くなるように思います。先生が一人一人の様子を見ることができる適正な人数の教室が安心できる場所につながると考えます。

84	まずは洲本市がこの課題（児童数減少）をどうとらえ、それに係る問題や課題を解決するような教育の方向性や対策を示せば、洲本市の小中学校はそこから逆算して、具体的にどんな教育を進めていくのか、特質ある教育を創造していくだろうと思う。
85	現在加茂小学校では、40人 1クラスのような状況が生まれています。普通教室に40人となると児童同士の今までなかった揉め事が急増しています。児童のストレスにもなっているんだなと思います。今後統廃合等考えられると思いますが、教室にいる児童にとってゆとりのあるものになれば、生徒指導が減り、必然的に教員の負担の軽減にもつながると考えます。その点も踏まえ考慮いただければ幸いです。
86	小学校は地域に一つはある方が良いと思う。しかし、今後の人数を考えると難しいところもあると感じる。校区の再編など考えていくことも、考えの一つとしてあってもよいと思う。
87	①小規模校の方が学力保証が行き届く。 ②島内で統廃合を経験した地域の方の言葉「学校がなくなると、地域の文化も消えたようになるなあ。」が、印象的でした。 ③郷土愛の観点からも、小学校は地域に根ざすべきと考えます。
88	地域交流や幼小中連携や交流などを考えると、校区内の身近に学校があるということが望ましいと思います。しかし、児童の減少といった大きな問題は、同年代との関わりが減ることから、しょうがないことだと思います。歩いて登校する楽しさ、新しい発見などを感じられないこれからの時代は悲しいですね。